

単元名

財政と国民の福祉

1 単元のねらい

身近な社会資本や公共サービスについて調べる活動を通して、国民生活と福祉の向上を図るために、市場の働きに委ねることが困難な諸問題について、国や地方公共団体が果たしている経済的役割について考えることができる。

少子高齢社会と社会保障の充実、日本経済の発展と課題など、経済上の諸問題に関心をもち、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。

社会資本の整備や社会保障の充実など、財政に関する課題学習において、様々な資料の活用を図り、自分の考えをまとめ、発表することができる。

財政の役割について、財源の確保と配分という観点をもとに、租税の意義と役割や納税の義務を通して理解することができる。

2 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	日本経済の抱える課題を理解すると共に、社会資本の整備、公害の防止などの環境保全、社会保障の充実、消費者の保護、租税の意義と役割及び国民の納税の義務について理解し、その知識を身に付けている。	国や地方公共団体が果たしている役割や財政の役割について、それに関わるさまざまな事象から課題を見出し、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	国や地方公共団体の経済的役割や財政上の諸課題について意欲的に追究し、議論やプレゼンテーションなどの学習活動に積極的に取り組んでいる。

●学習改善につなげる評価 ○評定に用いる評価

	1	2	3	4
知識・技能	●○	●	●	
思考・判断・表現		●		○
主体的に学習に取り組む態度	●			

3 単元構造図(全4時間) ☆獲得する認識

単元学習前の生徒の意識

国や地方公共団体の行政については学習したけれど、財政は自分たちの生活とどのように関わっているのだろう。また、私たちの税金は、どのようなことに使われているのだろう。

第1時 私たちの生活と財政 【●○知識・技能 ●主体的に学習に取り組む態度】

財政に使用される税金は、どのようなことに使われているのだろう。

財政に使用される税金は、所得税などの直接税や、消費税などの間接税によって集められている。一部の直接税には累進課税の方法をとるなど、様々な税金を組み合わせることで公平性を保つようになっている。集めた税金はどのように使用されているのだろう。

私たちが納めている税金は、私たちの生活を向上させるためにどのように使用されているのだろう。

第2時 財政の役割と課題

市場経済において、財政にはどのような役割と課題

☆社会資本 ☆公共サービス ☆財政政策

市場経済において、社会資本や公共サービス、社会保障などの整備をすることで、不当な経済格差をなくし、国民が安定した生活を送れるようになっている。また、景気の安定や公正で安全な経済活動をうながす役割も果たしている。しかし、公債の額は膨れ上がっており、これから「小さな政府」「大きな政府」のどちらにしていこうか、難しい選択をせまられている。

第3時 社会保障の仕組み

日本の社会保障制度はどのような仕組みに

☆社会保障 ☆社会保険 ☆公的扶助

社会保障制度は、日本国憲法の生存権の考え方に基づいて、社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生の四つを基本的な柱として存在している。社会保険は、誰もが可能性があることへの備えのため、人々がそれぞれ負担し合っているが、公的扶助・社会福祉・公衆衛生に関しては、全ての国民に健康で安全な生活を送る権利を保障するため、税金で運営されている。

第4時 少子高齢化と財政 【○思考・判断・表現】

少子高齢化が進む中で、日本の社会保障の在り方はどうあるべきだろう。

☆公的扶助制度

少子高齢化が進み、ますます国の税収が減り、社会保障への支出が増えていく。そのために、今後の日本の社会保障が低福祉低負担型か高福祉高負担型のどちらを目指すのかという選択を迫られており、社会保障の充実と経済成長との両立が大きな課題となっている。

単元学習後の生徒の意識

政府は税金を集め、国民の生活を補助したり、保障したりしていたんだ。こうした国の努力もあって、私たちの生活水準は向上している。しかし、日本の経済は多くの課題を抱えており、この先、さらによりよい社会をつくり出していくために

4 単元指導計画

時	ねらい	学習活動	評価規準	◇資料 指導・援助
---	-----	------	------	-----------

<p>1 私たちの生活と財政</p>	<p>政府の経済活動に関するさまざまな資料を読み取ることを通して、国民がよりよく生活ができるように、様々な方法で税金が集められ、公正な負担がなされていることを理解し、今後の学習に意欲をもつことができる。</p> <p>☆財政 ☆税金 ☆予算 ☆歳入 ☆歳出 ☆国税 ☆地方税 ☆消費税 ☆直接税 ☆間接税 ☆累進課税</p>	<p>1 日本の1年間の一般会計予算を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半分以上が税込だけ、35%も公債金がある。 ・社会保障関係費が3割を占め、一番多い。また、次にくる借金返済のための国債費も多い。 ・公債金より国債費の割合が低いことから、借金が増えていくことが読み取れる。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">財政に使用される税金は、どのようにして集められて</p> <p>2 税金の種類や集め方について追究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国税と地方税があり、納税者と担税者が一致する税を直接税、一致しない税を間接税という。 ・直接税には、所得税をはじめ、相続税、法人税、自動車税、固定資産税などがある。間接税には、消費税をはじめ、酒税、揮発油税、たばこ税、入湯税などがある。 ・所得税は、所得が多くなれば多くなるほど税率が高くなる累進課税の方法がとられている。 <p>3 国民に納税の義務がある理由を、税金の役割に着目して説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府の収入として公共の為に使われるもので、国民が公正に分担して納める必要があるから。 <p style="border: 3px double black; padding: 5px;">私たちが納めている税金は、私たちの生活を向上させるためにどのように使用されているのだろう。どのように使用されているのだろう。</p> <p>4 本時のまとめをする。</p>	<p>税金の種類や納税の方法には様々なものがあり、公平性を保つようになっていることを理解するとともに、税金の使用用途について学習意欲をもつことができている。(態)</p>	<p>◇国の一般会計予算</p> <p>◇主な税金 ◇主な国の直接税と間接税の割合 ◇所得税の累進課税</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税金が自分の生活にどのようにかかわっているのか考えさせる。 ・納税の義務の理由についての考えを書けるようにする。
--------------------	--	--	---	--

		<p>財政に使用される税金は、所得税などの直接税や、消費税などの間接税によって集められている。一部の直接税には累進課税の方法をとるなど、様々な税金を組み合わせることで公平性を保つようになっている。集めた税金はどのように使用されているのだろう。</p>		
<p>2 財政の役割と課題</p>	<p>身近にある政府の役割を読み取ることを通して、社会資本の整備や公共サービスを行っていることや財政政策を行っていることに気付き、財政の役割と課題について表現することができる。</p> <p>☆社会資本 ☆公共サービス ☆財政政策 ☆公共投資 ☆公債 ☆国債 ☆地方債</p>	<p>1 国や地方公共団体が管理・運営している施設の働きや共通点を交流する。</p> <p>・社会資本(インフラ)や公共サービスなど、どれも無くなったら困るものばかりだ。</p> <p>市場経済において、財政にはどのような役割と課題</p> <p>2 政府の財政政策を知る。</p> <p>・景気は、良すぎても悪すぎても私たちの生活を混乱させてしまう可能性があるから、財政政策を行って安定を図っている。公共事業を増減することで、雇用や仕事を調整し、税金を増減することで、お金の動きを調整している。</p> <p>・不足分は公債を発行して補っている。</p> <p>3 これからの財政についての課題を考える。</p> <p>・「大きな政府」で、巨額の公債が残っている。</p> <p>4 本時のまとめをする。</p>	<p>経済における政府の役割は、社会資本の整備や公共サービス、財政政策であるが、これからの財政には課題も残ることを考え、表現している。</p> <p>(思・判・表)</p>	<p>◇私たちの生活と政府の関係</p> <p>・もしも公共施設がなかったら生活にどんな影響があるのかを考える。</p> <p>◇金融政策と財政政策</p> <p>◇公債金の割合の推移</p> <p>◇日本の財政の推移</p> <p>・公債の発行の在り方について考える。</p>
		<p>市場経済において、社会資本や公共サービス、社会保障などの整備をすることで、不当な経済格差をなくし、国民が安定した生活を送れるようにしている。また、景気の安定や公正で安全な経済活動をうながす役割も果たしている。しかし、公債の額は膨れ上がっており、これから「小さな政府」「大きな政府」のどちらにしていくか、難しい選択をせまられている。</p>		

<p>3 社会保障の仕組み</p>	<p>社会保障の基本的な考え方と仕組みについて理解することができる。</p> <p>☆社会保障 ☆社会保険 ☆公的扶助 ☆社会福祉 ☆公衆衛生</p>	<p>1 産業革命時のイギリスの様子から、社会保障の考え方が生まれたことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活が困難になったとき、個人にかわって国が生活の保障を行う社会保障がある。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>日本の社会保障制度はどのような仕組みになっている</p> </div> <p>2 資料を基に追究する。</p> <p>【社会保険】【公的扶助】【社会福祉】【公衆衛生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4つの柱で、手厚く保障されている。 ・持続可能性という観点から、自助・共助・公助の適切な組み合わせが必要だ。 ・社会保険は、誰もが可能性あることへの備えのため、人々がそれぞれ負担し合っているんだ。 ・他3つは全ての国民に健康で安全な生活を送る権利を保障するため、税金で運営されている。 <p>3 本時のまとめをする</p>	<p>社会保障の考え方と仕組みについて理解し、まとめている。 (知・技)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇19世紀のイギリスでの炭鉱労働の様子 ・憲法第25条にある「健康で文化的な最低限度の生活」について想起できるようにする。 ◇日本の社会保障制度の四つの柱 ◇自助・共助・公助
		<p>社会保障制度は、日本国憲法の生存権の考え方に基づいて、社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生の四つを基本的な柱として存在している。社会保険は、誰もが可能性あることへの備えのため、人々がそれぞれ負担し合っているが、公的扶助・社会福祉・公衆衛生に関しては、全ての国民に健康で安全な生活を送る権利を保障するため、税金で運営されている。</p>		

<p>4 少子高齢化と財政</p>	<p>少子高齢社会が到来し、今後の社会保障のあり方について考えることを通して、日本の社会保障や社会保険の現状や諸外国の状況に気付き、今後の日本の社会保障が低福祉低負担型か高福祉高負担型のどちらを目指すのかを自分なりに考え、表現することができる。</p> <p>☆介護保険制度</p>	<p>1 日本の年齢別人口構成を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の割合が急速に増えている。 ・子どもの割合が減り、労働人口が減っている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>少子高齢化が進む中で、日本の社会保障の在り</p> </div> <p>2 資料を基に追究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化が進むと、医療費や年金の給付額が増えていく。 ・労働力人口が減るために、それらをまかなう保険料と税収が減る。 <p>3 社会保障のあり方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高福祉高負担の社会の方が、全ての国民が平等に安心して生活できるのではないか。 ・高齢社会で負担が増えていく今、低福祉低負担の社会の方が若い世代としては助かると思う。 <p>4 少子高齢化が進む日本において、社会保障にはどのような課題があるか、収入と支出の両面からまとめる。</p>	<p>少子高齢社会の問題点や課題を身近な生活の事例を通して考えたり、諸外国の現状と比較したりして考察することで、今後の日本の社会保障が低福祉低負担型型か高福祉高負担型のどちらを目指すか自分なりに考え、ノートに書くことができている。 (思・判・表)</p>	<p>◇日本の人口と人口構成の変化</p> <p>◇社会保障給付費の推移</p> <p>◇国民負担率と国民所得にしめる社会保障支出の割合 ・「みんなでチャレンジ」に取り組みながら、本時のまとめを書く。</p>
<p>少子高齢化が進み、ますます国の税収が減り、社会保障への支出が増えていく。そのために、今後の日本の社会保障が低福祉低負担型か高福祉高負担型のどちらを目指すのかという選択を迫られており、社会保障の充実と経済成長との両立が大きな課題となっている。</p>				